

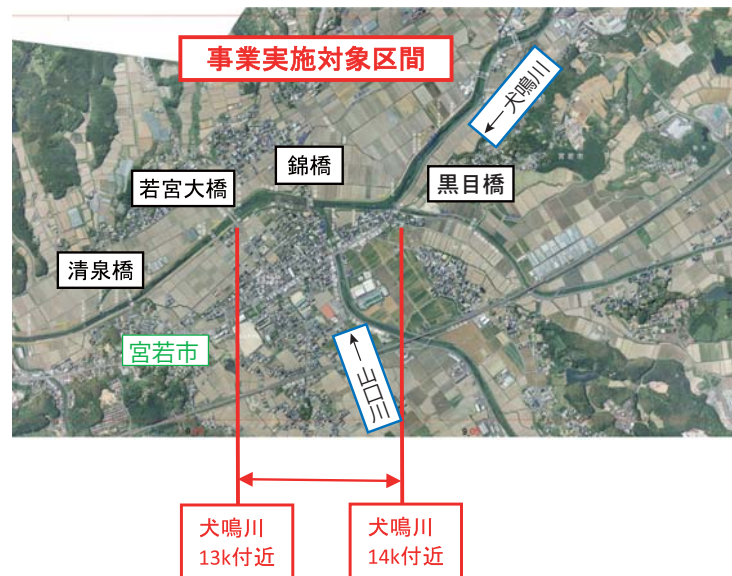
遠賀川河川改修事業[犬鳴川上流地区]

堤防整備による洪水被害の軽減

●堤防高さの低い一連区間の堤防整備を実施します。

平成21年7月豪雨により、遠賀川水系犬鳴川では宮田橋水位観測所において、過去最高水位を記録する大規模な洪水が発生しました。

このような洪水を安全に流下させるため、堤防高さの不足している犬鳴川上流地区の堤防整備を実施します。



H21.7月 犬鳴川・八木山川合流点(宮若市)

遠賀川河川改修事業[猪久保地区]

堤防整備による洪水被害の軽減

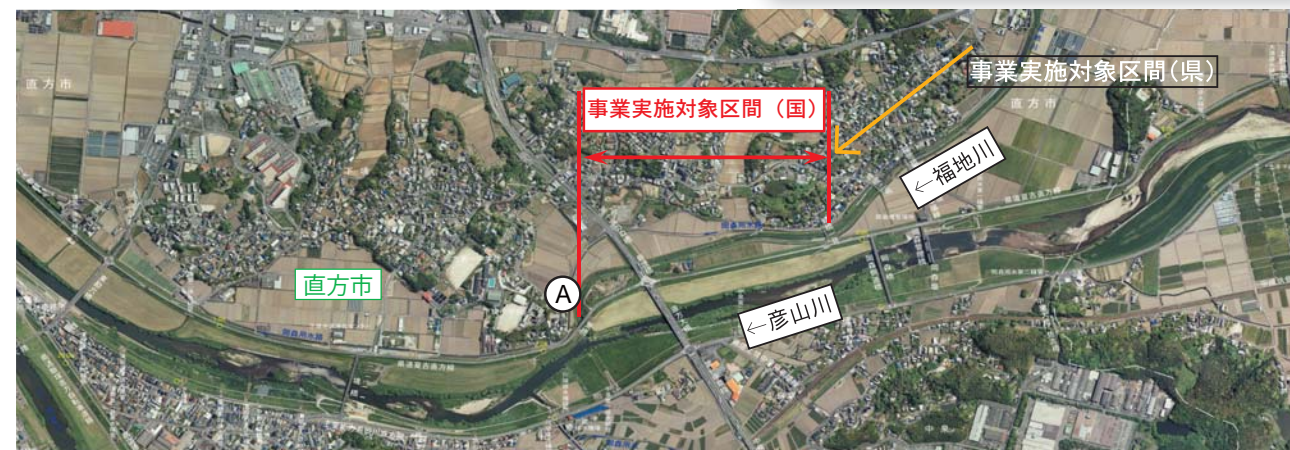
●堤防整備によって洪水の安全な流下と浸水被害の軽減を図ります。

近年発生した豪雨によって、彦山川支流福地川の猪久保地区において浸水被害が発生しました。

このような洪水を安全に流下させ、浸水被害を軽減するため、堤防高の不足している一連区間の堤防整備を県と調整して実施します。



H22.7月 猪久保地区の浸水状況(直方市)

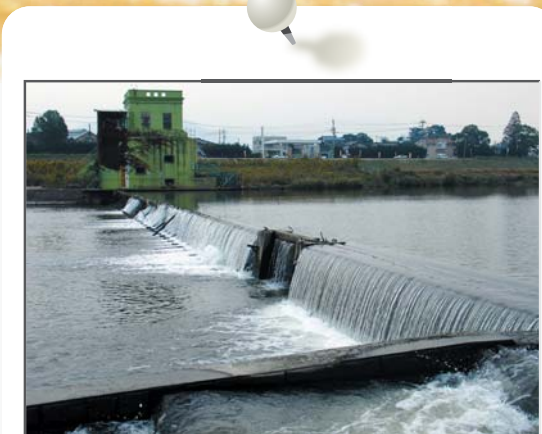


遠賀川特定構造物改築事業[中間堰]

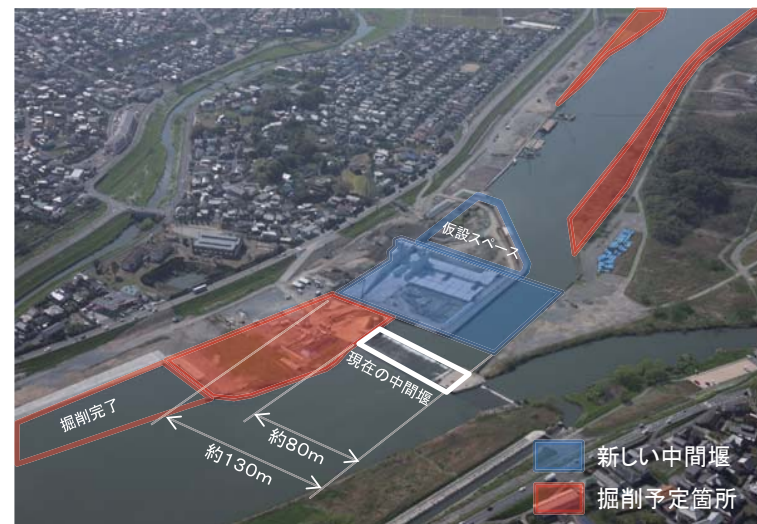
堰改築による治水安全度の向上

●堰の改築と河道掘削によって洪水の安全な流下と浸水被害の軽減を図ります。

遠賀川11k300付近に位置する中間堰は、工業用水等の取水を目的として、昭和4年に設置された堰であり、周辺には市街地が広がっています。堰付近は河床が高く洪水の安全な流下を阻害する要因となっていることから、堰改築とそれに伴う河道掘削を行い、河道断面を確保して、洪水時の水位を低下させることで被害の軽減を図ります。

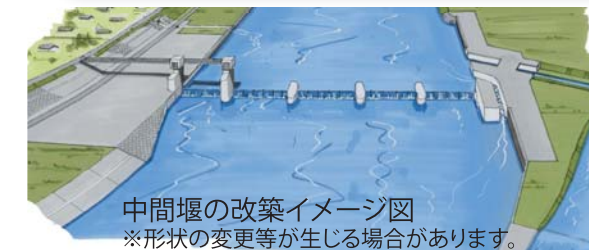


現在の中間堰

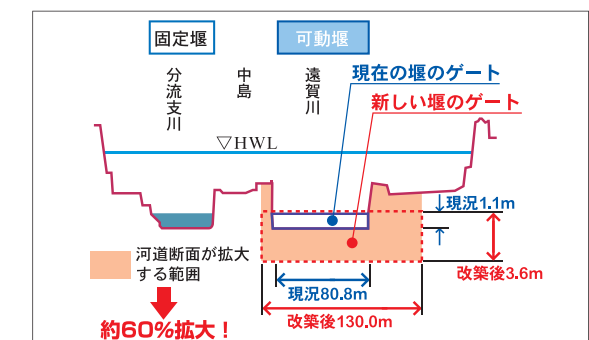


●事業の概要

- 事業箇所：福岡県中間市
- 期 間：平成21年度～
- 事業内容：堰の改築・河道掘削



中間堰の改築イメージ図
※形状の変更等が生じる場合があります。

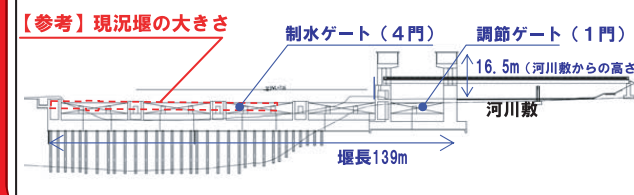


中間堰の改築とあわせ、上下流の川底や堰の両岸の掘削を行うことにより、水が流れる断面積が約6割増加し洪水を安全に流す能力が大幅に改善されます。

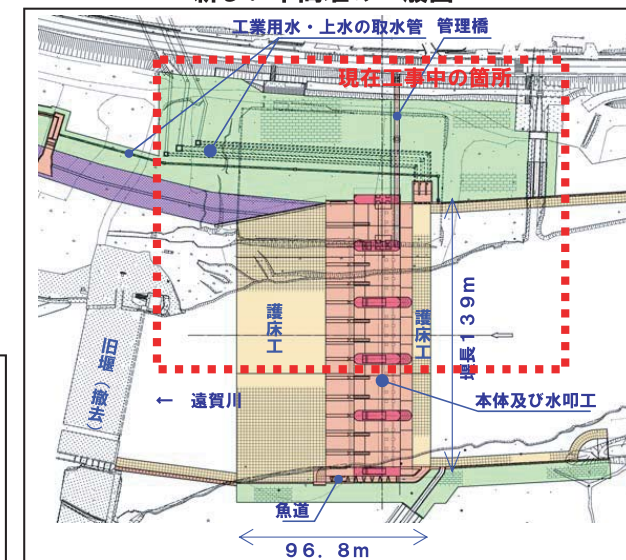
新しい中間堰の大きさは？

- 事業期間 平成21年度～
- 堰 長 139.0m (魚道を含まず)
- ゲ ー ト 制水ゲート
高さ3.63m×幅22.7m×4門
- 調節ゲート
高さ3.63m×幅18m×1門

新しい中間堰の正面図



新しい中間堰の一般図



中島自然再生事業

多様な自然環境の保全・復元

● 中島の氾濫原やヨシ原を復元、創出し、河川の多様な水際景観を創出します。

遠賀川中流部では、流域の土地利用の変化や河川改修により、もともと河川や周辺にあった湿地（川の中のためりや池など）が失われてきました。

また、河川改修が進み、川岸にコンクリート護岸が設置されたことにより、水際は単調となり、様々な生物が棲む空間が減少し、生物の多様性が低下してきました。

そこで、流域や河川で失われた湿地を創出し、多様な生物が生息する河川環境の再生を目的に、ヨシ原が減少し外来植物の繁殖が進んでいる中間市の中島において、掘削による湿地の再生及びヨシ原の保全を行い、次世代に引き継ぐ未来の遠賀川の川づくりを行います。



平成24年12月現在の中島の状況



●地盤を掘り下げた後の湿地イメージ



地域の皆さんとの自然観察会 「中島自然再生計画検討委員会」開催風景

遠賀川水系エコロジカルネットワーク再生事業

生物ネットワークの再生

● 樋門・樋管の段差を解消し、河川敷開水路を多自然化します。

遠賀川水系では数百にもおよぶ樋門・樋管により、川と田んぼ（水路を含む）が隔てられ、田んぼとの関連性の強い生物（ドジョウ類・ナマズなど）の生息・生育環境が損なわれています。

そこで、樋門・樋管出口および本川合流部における段差を解消し、田んぼ（水路含む）との連続性を回復させるとともに、コンクリート3面張りの河川敷開水路を多自然化することにより生物の生息・生育環境の改善を図ります。



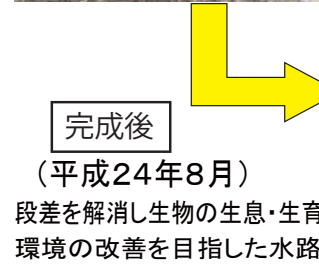
ワークショップ状況



着工前

(平成22年11月)

直線的で単一な水路



完成後

(平成24年8月)

段差を解消し生物の生息・生育環境の改善を目指した水路



「遠賀川水系エコロジカルネットワーク検討会」開催風景

遠賀川河口堰魚道改良事業

遠賀川水系全体の魚類等の多様性回復

● 現況魚道を多自然魚道へ

遠賀川河口堰の魚道は遠賀川水系の最下流に位置することから、遠賀川と海を行き来する魚類などの出入り口となる大変重要な役割を果たしていますが、現在ある魚道は、体の大きさなど特徴の違うさまざまな種類の魚類等が遡上・降下しづらいものとなっています。

そこで、種々の魚たちが行き来しやすくなるように、多自然魚道を新設するとともに、既設魚道の改良を行うことにより、遠賀川水系全体の魚類等の多様性の回復を図ります。

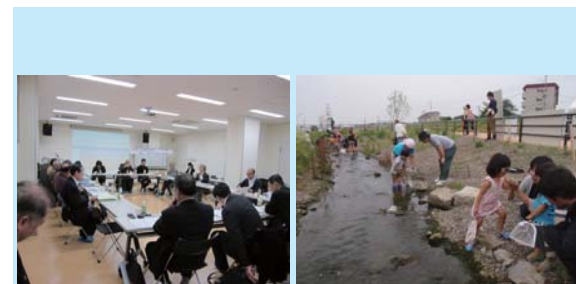


従来の魚道



着工前
コンクリートで覆われた護岸
(平成22年10月)

完成後
魚道完成(平成25年6月)



「河口堰魚道を考え、望ましい遠賀川を次世代へ繋ぐ懇談会」開催状況

魚道完成後の状況

遠賀川魚道公園のレイアウトと設置看板

河口干潟
多自然魚道を遡上(下ったり上ったり)する魚を誘導し、また魚の待避所にもなる場所です。この河口干潟も、潮の干満によって水位が変化するため、多様な生き物の生息空間となります。また、この場所には魚群が滞留していることもあるので、よく観察してみてください。

生き物が棲める草地
昆虫やげっ歯類など、多くの種類の生き物が棲むためには、人の手が届かない環境も必要となります。公園の東側一帯では、緑生の遷移をできるだけ自然に任せることにより、多くの生き物が生息出来るような草地を創出します。

多自然魚道
種魚や底生魚といった、泳ぐ力の弱い魚を対象とした緩やかな勾配の魚道です。魚道内の植物や石によってつくれた多様な環境に、多くの生き物が棲んでいます。この多自然魚道は、そのような生き物の生息を知ることも、子どもたちの環境学習の場となることも期待できます。

入江干潟
潮の溜り引きによって生み出される環境のもと、河口域特有の多様な生き物が気持ちよく暮らす砂干潟です。砂や泥などの底質、地盤の高さによって、棲む生き物も異なります。この場所も、環境学習の場として利用することができます。

遊歩道
多自然魚道に住む生き物を観察しながら歩ける道です。生き物の種類によって、川岸の草の茂ったところ、比較的流れの緩やかなところなど、住む場所も異なります。遊歩道と多自然魚道の距離は、場所によって異なります。場所によって変化する景色や音を感じてみてください。また、遊歩道から遊歩道に降りるための階段やスロープは、歩きやすさやアフォーダンスを考慮して設計を行っています。

遠賀川魚道公園の場所
この遠賀川魚道公園は、遠賀川の最下流に位置しています。海と川の接点であるこの場所は、魚などの生き物にとっても重要な場所となっています。

遠賀川の管理

河川を快適で安全な状態を保つために

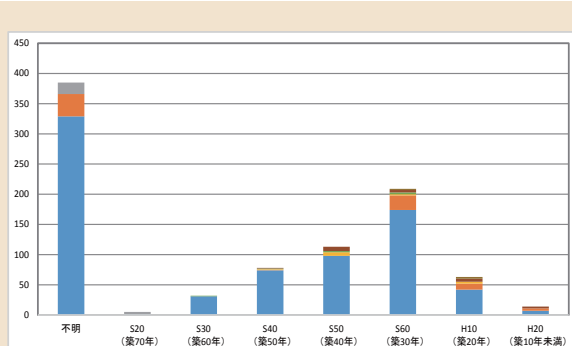
遠賀川が常に快適で良好な状態を保つように管理しています。洪水時に河川管理施設（堤防・護岸・樋門樋管など）がきちんと機能を発揮できるように点検、維持修繕などを行っています。

また、管理施設の異常や水質事故、河川へのゴミの不法投棄や不法占用などを監視するために河川巡視を実施しています。

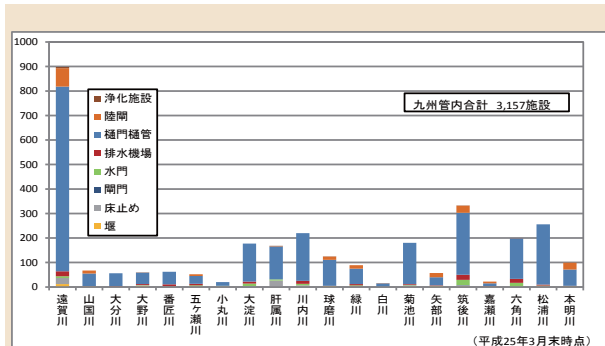
河川管理施設の現状について

遠賀川における河川管理施設の設置数は、樋門・樋管が約750箇所（九州第1位）、水門が10箇所（九州第3位）、排水機場が17箇所（九州第2位）、堰が7箇所（九州第1位）、床止めが36箇所（九州第1位）、陸閘が76箇所（九州第1位）となっています。

このように遠賀川水系には、河川管理施設の全体数が多く、設置年度が古い施設や不明の施設も多くあり、流域で暮らす住民の生命と財産を守るためには、膨大な数の河川管理施設についての維持修繕が必要です。



遠賀川流域内の河川管理施設の建設年代



九州20水系の河川管理施設数

河川管理施設の補修

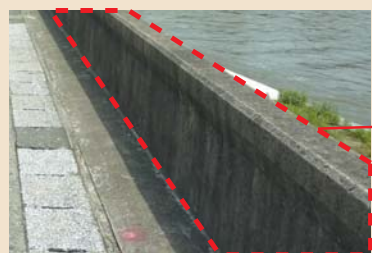
パラペット堤防の補修を行って安全を保ちます。

田川市伊田地区を流れる彦山川の堤防は、約50年前にコンクリートでつくられたパラペット堤防であり、その一部で空洞化や剥離などの老朽化が進んでいることから、これら堤防の機能を維持するため、老朽化したパラペット堤防の補修を行っています。

なお、補修箇所周辺は川渡し神幸祭の会場となっていることも踏まえ、「ばんだごうらの明日を考える懇談会」を開催して地域の方々のご意見をお聞きし、周辺の景観との調和を図りながら実施しています。



川渡し神幸祭



補修前のパラペット堤防



補修前のパラペット堤防



地域の皆さんと意見交換会



補修後のパラペット堤防



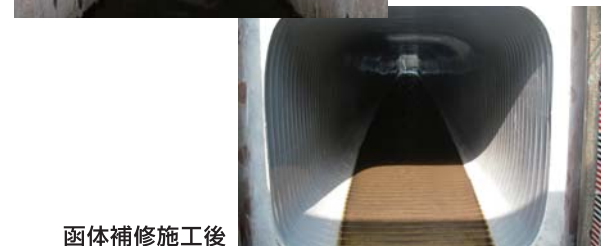
補修後のパラペット堤防

施設の補修・改善（樋管の補修、護岸修繕、上屋設置、電動化など）

ひび割れや漏水など、機能が低下している施設やその周辺部について応急的な補修・改善を行います。また、洪水時に樋門などを操作する際の安全確保のため、上屋の設置や動力の電動化を順次進めています。



函体補修施工前



函体補修施工後

方城第5排水樋管 (H21. 2月 完成)



上屋施工前



上屋施工後

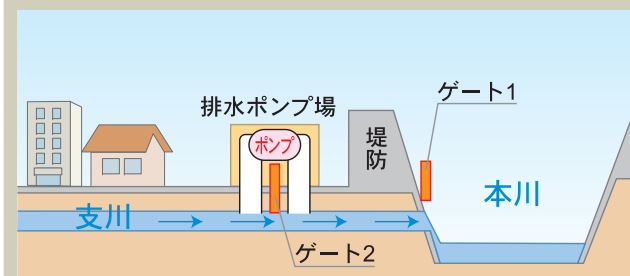
経塚排水樋管 (H19.3月 完成)

排水ポンプ場

遠賀川には洪水から暮らしを守る為に、たくさんの排水ポンプ場が整備されています。

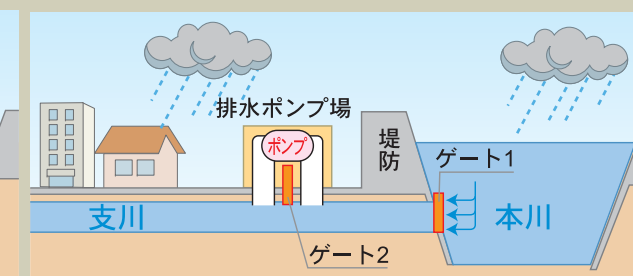
排水ポンプ場の役割

排水ポンプ場の仕組み1



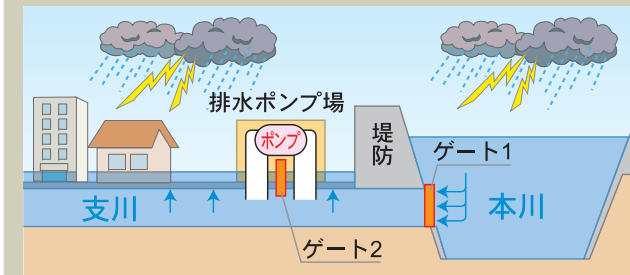
普段は支川の水が本川より高いため支川から本川へ水が流れ込みます。ゲート1、ゲート2は開いています。

排水ポンプ場の仕組み2



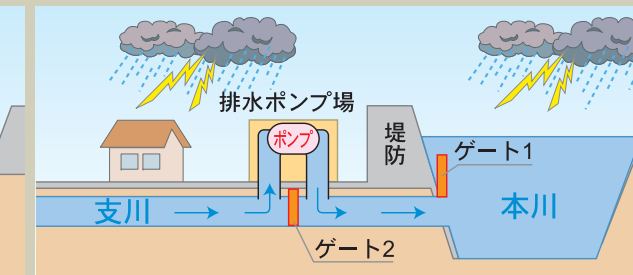
大雨などのときは本川の水位が高くなるため支川への逆流を防ぐためにゲート1を閉じます。ゲート2は開いています。

排水ポンプ場の仕組み3



しかし、雨が降り続けると支川の水は本川へ流れ込まず、住宅地や道路、田畑に溢れ出します。

排水ポンプ場の仕組み4



浸水被害をおさえるため、溢れ出しそうな支川の水をポンプ(排水機)の力によって本川へ押し出すことが排水ポンプ場の役割です。ゲート1は開き、ゲート2は閉じています。